

デンソーグローバル
研修所・保養所
「AQUAWINGS」



浜名湖の夕景に溶け込む外観

review

選評

細く長い林道の終点、浜名湖を見下ろす丘の上にはちよつとした広場が広がり、そこにこの広場のスケールからみれば巨大に思えるグレーの外壁が立ちはだかる。この建物の入り口は折り重なる壁の隙間に小さく設けられており、見つけるのには少しの時間がかかる。長く感じるやや暗いアプローチを抜けホールに入ると視界が一気に広がり、トップライトより気持ちの良い光が降りてくる。このアプローチとの関係がエントランスに入ったときの感動を増幅する。トップライトからは上部のアルミのルーバーにより制御された光が降り注ぎ、この空間をより快適なものとしている。一段上に賓客を迎えるための大きなダイニングテーブルが配置され、ここにもゲストを迎え

入れる姿勢がうかがえる。光に導かれるようにホールの上にあがると目の前に、両手を伸ばし包み込むように浜名湖が広がっている。この建物の素晴らしさはこの風景を読み解いたことにあると感じさせられる。

ゲストハウスと保養所という限定された人でのしか利用できない、ある意味隔離された建物ではあるが、この風景に溶け込んだ配置は違和感なく身を包み込む。デンソーという国際企業の研修所であるため、サインから家具まで海外の利用者にも心配りがされた丁寧なデザインが嫌味なく配置されている。建築主と設計者が一体となりこの建物の心地良い空間を作っているといえる。訪れた時、それぞれの室内ではガラス越しに会議がおこなわれていたが、会議室が吹き抜けを挟み浜名湖の風景と一体になり、あたたかも湖の風が建物の中を通り過ぎるような感覚にさせられた。

中央の吹き抜けを中心として前背面に会議室が配置され、両ウイングには、それぞれの宿泊施設が配置され、その全てが浜名湖に向けられている。安らぎとそして企業精神が集結された印象を与える。短時間の滞在であったが、二四時間この場所で過ごせればもっと違った印象を受けるかもしれない。企業関係者のためだけの建築ではなく、一般に開放されれば、この賞の意義



期待が高まるエントランスポーチ



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

〔2018年 第59回 BCS賞受賞作品〕太田市美術館・図書館／高知県立高知城歴史博物館／コープ共済プラザ／新豊洲Brillia ランニングスタジアム／すみだ北斎美術館／洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff (e-cube)／空の森クリニック／高崎アリーナ／多治見市火葬場華立やすらぎの杜／立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所／デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」／日本無線先端技術センター／パナソニック スタジアム 吹田／羽田クロノゲート／益子町地域振興拠点施設「道の駅まこ」／〔特別賞〕名駅一丁目計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



建築主より

Message from Building owner

株式会社デンソー
人事部 部長

加藤晋也 *Shinya Kato*

学びを誘発し、進化しつづける

AQUAWINGSは2つの顔を持つ建物です。国内外のリーダー達が学び、研鑽し合う研修所としての顔と、休日に社員や家族がリラックスできる保養施設としての顔です。

こだわりは、自ら学ぶ姿勢を誘発しつつも、緊張感から開放されリラックスできる非日常空間の創出です。周囲を湖と森に囲まれるという最高の条件を単なる背景とせず、大事な一要素として各エリアに溶け込ませており、訪れる度に新たな発見に出会えます。

柔軟性の高さもこだわりです。空間を細かに仕切らず用途も定めないので、使い手がニーズに応じて空間を自由に変えられます。講義、会議やワークショップという多様なスタイルへの対応はもちろん、この先何十年と利用し続けるため、今後も変化する学びのスタイルに対応するためのものです。

ここでどんな学びを紡いでいくのか。デンソーが名実ともに時代の先を歩み、進化し続けていくという想いの結晶がこのAQUAWINGSです。



設計者より

Message from Building designer

株式会社日建設計
設計部門 アソシエイト

奥宮由美 *Yumi Okumiya*

静かな湖面・豊かな緑・うつろう風景と協創する

初めて現地を訪れた夏、深い緑に覆われた旧研修所の屋上に上がり、四周に広がる眺望に心を奪われたことを思い出します。新しい研修所は、この敷地のポテンシャルを最大限取り込み、湖側・森側・中央の吹き抜け空間のどこにいても、季節・時間と共にうつろう風景と自然環境に常に包まれたように感じられ、五感を刺激し、豊かな発想を生み出す「非日常的な空間」を目指して計画しました。同時に、丘の頂上の限られた不整形な平場条件のなかで、周辺環境と調和するように、地形に馴染む緩やかな流線型の平面が上階につれてセットバックする構成としました。

何よりも、目指すコンセプトを建築主・運営者・施工者の皆様と共有できたことにより、仕上・家具・照明プログラム等の細部に至るまで協議を重ね、訪れる人に感動とくつろぎを与える研修所・保養所が実現できたと思います。



施工者より

Message from Builder

株式会社大林組
名古屋支店 鬼頭工業新事務棟工事事務所 所長

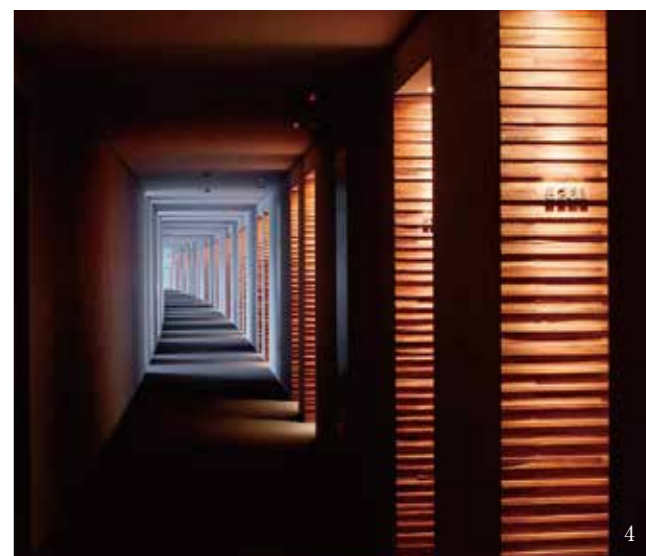
松本伸次 *Shinji Matsumoto*

「ものづくり」イメージから具現化へ

まずは、このプロジェクトに参画できたこと、BCS賞を受賞して自身の施工者としての痕跡を残せたことに感謝いたします。また、デンソー、日建設計のメンバーと一体となってこのような建物づくりに携われたことを誇りに思います。

最初の印象としては浜名湖の湖畔に聳える小高い山の頂点の自然のなかに巨大な豪華客船が浮かぶ、といったインパクトのあるものでした。一切の直線・平坦を排除して山の等高線・樹々に沿った、山の一部を創るといふ掴みどころのないイメージからの始まりでした。

漠然としたイメージからメンバーと共に打ち合わせ・曲線の図面・モックアップ製作等を経て一つひとつを積み上げていくプロセス、そして形を成した時の感動を与えてくれた建物。浜名湖からの雄姿をこれからも見続けていきたいと思っています。



1. 1階、自然光が降り注ぐ動的な空間
2. 2階、階段を上ると広がる浜名湖の絶景
3. 3階、吹抜けを介して見た湖側の研修室
4. 曲線と木の温もりが導く宿泊室廊下

デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」計画概要

- 建築主 (株)デンソー
- 設計者 (株)日建設計
- 施工者 (株)大林組
- 所在地 静岡県浜松市北区三ヶ日町都筑607-1
- 竣工日 2016年3月31日

- 敷地面積 26,404㎡
- 建築面積 3,764㎡
- 延床面積 11,263㎡

- 階数 地上5階
- 構造 鉄骨造

「選考委員」 竹内徹・青木茂・尾崎勝

感のもてる施設となっている。

がさらに評価される施設ではないかと思わせる。平面計画で宿泊棟は浜名湖とは反対の曲面で配置され、事前にプランを見た時点ではいさか違和感を覚えたが、訪れて客室間のプライバシーに配慮し、この敷地の等高線に沿って配置されたことが理解できた。変化する座標軸を使って配置された計画は高い施工精度を要求し、施工者の苦勞が感じられ、その苦勞の甲斐のある仕上がりである。環境的には浜名湖の空気を取り込むため、クールヒートレンチを介して室内に取り入れている。視察日が季節柄良い気候であったため効果は分からないが、良好に機能しているように推測された。積層された外形と大きな庇は、直射日光を軽減しカーテンブラインド無しで風景と光を取り入れている。総じて耐久性とメンテナンスがうまく機能され、環境に配慮され好感のもてる施設となっている。